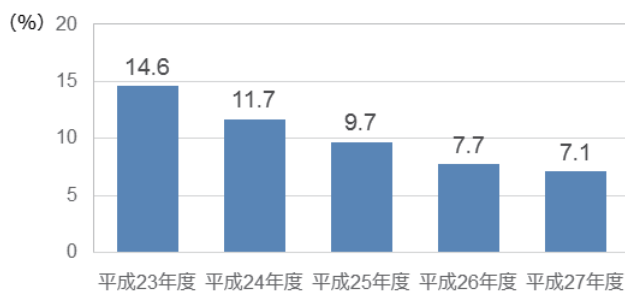


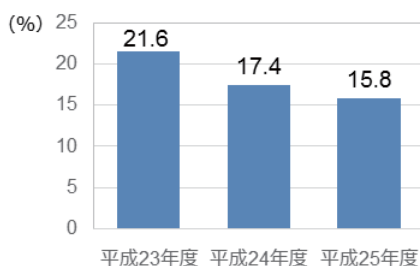
● 気分の落ち込みや不安に関して支援が必要と考えられる人の割合



測定尺度：K6*

* 気分の落ち込みや不安に関する6項目に0～4点で回答。合計13点以上で、気分障害や不安障害の可能性を疑う。

● 被災で生じた「トラウマ反応」に関して支援が必要と考えられる人の割合



測定尺度：PCL*

* 被災体験に対して、時々起こる問題や訴え（トラウマ反応）に関する17項目に1～5点で回答。44点以上で、PTSDの可能性を疑う。

※回答時の負荷を軽減するため、平成26・27年度調査ではPCLに関する設問を設けていない。

第11、15、19、23、27回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

- ・ K6※¹は、平成23年度調査及び、平成24年度調査と比較して低下しているものの、依然高い値を示しました。
- ・ 性別では、男性より女性のほうが高い値を示し、年齢別では過年度と比較して差が最も小さくなっています。
- ・ PCL※²は、平成23年度調査及び、平成24年度調査と比較して低下しているものの、依然高い値を示しました。

※1：K6＝気分の落ち込みや不安の程度を測る尺度（≡ものさし）

気分の落ち込みや不安に関する6項目（例：「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」等）について、それぞれ過去30日間にどれくらいの頻度であったかを回答していただきました。この項目は16歳以上を対象に実施。この項目によって気分障害や、不安障害の可能性について、日常生活に支障を来すレベルかどうかを判定しました。

※2：PCL（Post Traumatic Stress Disorder Checklist）＝トラウマ反応を測る尺度（≡ものさし）

被災の体験に対して時々起こる問題や訴え（トラウマ反応）に関する17項目（例：「そのストレス体験の、ところをかき乱すような記憶、考え、イメージ（光景等）を繰り返し思い出す」「そのストレス体験の、ところをかき乱すような夢を繰り返し見る」等）について、それぞれ過去30日間にどれくらいあったかを回答していただきました。この項目によって、トラウマ反応の強さについて判定しました。

本資料への収録日：平成27年3月31日

改訂日：平成29年12月1日